

## 第4回 「新たな「京都市動物園構想」の策定」検討会議 議事摘録

日時：平成31年2月26日（水）午前9時半時～12時

会場：京都市動物園 レクチャールーム

出席者：

### 【委員】

池田 泰子 市民公募委員  
今村 礼子 市民公募委員  
澤邊 吉信 岡崎自治連合会会長  
中道 正之 大阪大学大学院人間科学研究科教授  
福井 亘 京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授  
藤井 容子 京都岡崎魅力づくり推進協議会 魅力情報発信担当マネージャー  
本多 和夫 平安神宮 宮司  
森村 成樹 京都大学野生動物研究センター特定准教授  
湯本 貴和 京都大学霊長類研究所所長・教授

(欠席)

松本 朱実 動物教材研究所 poket 主宰 甲南大学非常勤講師

### 【事務局】

(文化市民局)

文化担当局長	北村 信幸
文化芸術都市推進室長	尾崎 学
文化芸術企画課長	藤田 智洋

(動物園)

園長	片山 博昭
副園長	坂本 英房
総務課長	山本 孝
種の保存展示課長	和田 晴太郎
生き物・学び・研究センター 研究教育係長	伊藤 英之
総務課庶務係長	牛丸 昭
総務課	岩浅 拓也

(コンサルタント)

株式会社地域計画建築研究所	嶋崎 雅嘉, 原田 稔, 三浦 健史, 塗師木 伸介
---------------	-------------------------------

### 【オブザーバー】

地球温暖化対策課長	安田 真也
環境管理課長	濱口 弘行
設備企画担当課長	田中 良幸
公共建築企画課課長補佐	樋口 博紀
建築企画第一係長	堀村 清一郎
公共建築企画課	大野 達三

## 1 開会

山本課長

- ・これより第4回検討委員会を始めさせていただきます。
- ・池田委員は遅れて参加する予定である。
- ・松本委員は欠席である。松本委員からは、事前に意見をお聞きしているので、後ほど報告させていただく。
- ・議事進行については湯本座長にお願いする。

## 2 議題

### (1) 新たな「京都市動物園構想」の素案について

資料（新たな「京都市動物園構想」）説明

藤井委員

- ・32p 施策 16 について連携先に総合企画局と京都岡崎魅力づくり推進協議会を追加して欲しい。

片山園長

- ・ご指摘の部分は加筆修正させていただく。

松本委員の意見紹介（坂本副園長）

- ・6p のアンケートをとる場合は、来園者が何を望むのかについてアンケートを取った方がよかったのではないか。
- ・8p 教育機関としての役割は「市民にわかりやすく伝える」よりも「来園者自らが学ぶ」ということが重要ではないか。
- ・「いのちをつなぎ、いのちが輝く動物園」という言葉にはさまざまなキーワードが含まれているので、新構想のテーマとしてはどうか。（表紙に記載する等）
- ・9p SDGs 自体は文化的な要素を含んでいないので京都版 SDGs を作ってはどうか。
- ・23p 「自分ごととして捉え〜」の部分をより能動的にするために「参画することによる支援」という言葉を入れてはどうか
- ・27p の施策 15 に「新学習指導要領に対応」という言葉を入れてはどうか
- ・「子供が自発的に気づくきっかけづくり」「子供たちが見てわかる展示等」が必要ではないか

湯本座長

- ・松本委員の意見はアクティブラーニングという考え方を取り入れた方が良いのではないかという意見と理解した。
- ・SDGs については個々の議論だけでは難しく、(京都市)環境審議会で議論されている。私はそちらの委員でもあるので、そちらでも引き継いで議論をしていきたいと思う

今村委員

- ・私も「いのちをつなぎ、いのちが輝く」という言葉は良いと思う。
- ・人間が動物を同じ生き物として感じられることが大切かと思う。

#### 中道委員

- ・8p～11p を通して見たときに内容の重複が多いように思った。誰に対しての発信なのか（外に向けてなのか中に向けてなのか）を整理しないと分かりにくい
- ・「進化」という言葉をどう使うか。今の使い方は本来的な使い方ではない。生物学的な進化と一般的な進化は意味が異なるので、生物を扱う動物園として「進化」の使い方は慎重に検討してほしい。

#### 湯本座長

- ・私も「進化」の使い方については気になった。発展、革新という言葉で良いのではないかと思う。生物学者としては気になる言葉である。
- ・重複感についても私も感じた。マンパワーも限られているので、たくさんあれば良いというものではない。増やすよりも絞った方が良いのではないか。

#### 池田委員

- ・この冊子を将来手にとって見る人はどういう人なのか。市民ならばテキストを絞って分かりやすくした方が良いと思う。
- ・23p 施策 10, 24p 施策 11 については難しい連携のように思った。しかし、将来性は感じる。詳しい話を聞きたい。
- ・25 年程度前から世界中の環境教育において、「学んでも学ばせても自然に関わることができない」というトラウマが言われている。松本委員の意見であった参画をどう強化して行くかという点が大切かと思う。

#### 片山園長

- ・このままだと誰向けのものなのか分かりにくいいため、市民の方に向けては分かりやすい概要版を作りたいと思っている。本資料は内部の今後 10 年に向けた行動指針（バイブル）のようなものだと思っている。

#### 湯本座長

- ・私も市民向けには項目を絞る方向で良いと思う。本資料は動物園、植物園、水族館へのメッセージとして専門家向けとして捉えれば良いと思う。しかし、専門家向けならば「進化」の使い方がやはり気になる。

#### 片山園長

- ・23p の 4 園間連携について、10 年前の構想では触れていなかった。4 年前に立ち上がった構想である。多くの子供が訪れるイベントや場所に 4 園が出向いて普及啓発を進めて行っている。
- ・施策 11 について、植物園を特に取り上げて記載している。自然科学系の植物園、動物園として、施策として連携したいと思っている。

#### 福井委員

- ・最終的に京都市 HP において公表されるかと思うので概要版は市民に分かりやすいものにして欲しい。
- ・特に 8p, 9p については量が多く分かりにくい。

- ・市立芸大との連携について記載されているが、文学部系の大学との連携も追加してもらえればと思う。
- ・11p 新構想から追加した取組の☆が施作 10 の「きょうと☆いのち〜」の星と重複していて分かりにくい。
- ・9p の絶滅危惧種の名前の順については哺乳類を先にするとか、学名順にする等検討してほしい

#### 森村委員

- ・私も「いのちをつなぎ、いのちが輝く動物園」は良い言葉だと思う。
- ・本計画において、記載されていることを整理すると、人とのネットワークを書いているのかと思う。
- ・ネットワークをどれほど持っているのかというのが動物園の価値であり、それを市民に今後還元して貰ってもらえたら良いと思っている。そのネットワークを1枚もので表現すべきかと思う。それが機能することがSDGsにつながる。
- ・今回の構想において、京都市動物園は人への投資を始めたと理解している。それをどう体現していくのかということが記載されていると良いと思う。

#### 本多委員

- ・「いのちをつなぎ〜」という言葉は素晴らしい。
- ・平安神宮にはイチモンジタナゴが生存しているが、今の環境を維持できるか不安になっている。動物園より存続(いのちをつなぐ)できるアドバイスをいただけたら良いと思っている。

#### 湯本座長

- ・本来は博物館の役割ではあるが、京都市にはないので、動物園が市民の相談口になるということもあっても良いのではないかな。

#### 和田課長

- ・市民相談窓口ということは明記していないが、市民から問い合わせがあることもある。分かる範囲で答えている。
- ・インターネットの普及により相談は減っており、相談をする人は高齢者が多い。

#### 澤邊委員

- ・人間も地球に生きる一員である、というのはとても共感する。
- ・「いのち輝く〜」は素晴らしいテーマなので一番上に持っていった方が良いように思う。

#### 湯本座長

- ・京都市が一丸となり、京都府と連携もしていくというのが大切かと思う。
- ・用語の説明が各所に必要かと思う (ex. 認定動物園)。

#### 中道委員

- ・11p 柱 2 について「野生動物」というのは本当の野生動物なのか、動物園で暮らしている動物を指すのか、どちらか。

#### 坂本副園長

- ・現時点では飼育下にある動物を考えているが、今後生息域内、本当の意味での野生動物の保全まで手を伸ばせたら良いと考えている。

#### 片山園長

- ・例えばアジアゾウの生息について、京都市動物園が直接的にどのようなことができるか、というのは実際問題として難しい。
- ・本当の野生下の動物へは、全国の園との横のつながり（JAZA）を窓口として貢献して行きたいと思う。

#### 中道委員

- ・一般の人が野生動物と聞くと、野外に生息している動物と捉えると思う。
- ・動物園職員の方が、動物園で暮らす動物だけでなく野外に生息している動物の研究にまで取り組んで行くということを考えているのであれば明記すべきかと思う。ただ、海外でも取り組んでいるところはあるが数は少ない(10箇所程)
- ・動物園で暮らす動物の研究に注力するというやり方でも良いように思う。
- ・4園間連携において、動物園職員が他園へ出向いて情報交換や相互に体験するということもあると思う。

#### 湯本座長

- ・海外で野生動物の研究も並行して行っている園もあるが、市民より多額の寄付を集めて行っている。しかし、京都市動物園において、飼育している動物以外の研究をするのは少し無理があるように思うので、そういうことをしないのであれば明確に記載した方が誤解は無いように思う。

#### 藤井委員

- ・概要版の「京都市動物園の更なる発展」と「5つの柱と27の施策」に記載されている内容が同じことを言っているのに言葉を言い換えている。ここを修正すれば分かり易くなるように思う。
- ・柱5の「近くて楽しい動物園」の更なる進化」内に、他の柱に当てはまるものが含まれている。この柱が項目として必要か疑問である。
- ・京都市動物園、動物園、本園という言葉の使い分けが明確ではないように思う（23p参照）。特に「動物園」に関して、一般名詞の動物園、京都市動物園の略称としての固有名詞の「(京都市)動物園」が混在している。名辞を明確にすることで文脈もはっきりするのではないか。

#### 湯本座長

- ・柱5「近くて楽しい動物園」の～」の内容だけ具体的である。柱1～4を実現するための柱5であるという説明を受けたことがあるが、それが並列で並んでいることに違和感があるように思う。
- ・これまでの会議で柱1～4の理念的なものについては十分に議論が進んできたが、それを実現するための柱5についてはまだ議論があまり進められておらず、京都市動物園が具体的にどのような取組を進めていくかについて今後更なる議論が必要であるように思う。コンセプトをソフトとハードでどう実現していくか、この場で引き続き次年度もこのメンバーで検討していった方が良いと思うがいかがか。

福井委員

- ・私も、次年度も続けて行った方が良いと思う。その中で柱を見直すことも重要だと思う。

片山園長

- ・昨年の夏より幅広い議論をしてきたが、本構想を本年度中に決めるのは難しいと感じている。
- ・先日、中間報告を市長に行った。急ぎ過ぎず、時間を掛け、市民を巻き込みながら進めて行ってはどうかという意見を頂いた。
- ・委員の方が良ければ、次年度も続けさせていただきたいと思っている。

湯本座長

- ・みなさまがよければ次年度も続けて行きたいと思う。(特に異議なし)
- ・この場での議論も良いが、市民にどうやってフィードバックして行くのか。素案が出来た段階でパブコメ等で市民の意見を聞いた方が良いように思う。

坂本副園長

- ・最終的に、パブコメは行う予定である。
- ・構想自体の周知や様々な団体からの意見聴取を行えたら良いと思う。

湯本座長

- ・例えば、委員数名が参加して市民を交えて座談会を公開で行うというのはいかがか。その場で参加者から意見を貰えるだろう。

坂本副園長

- ・開催できる方向で考えて行ければと思う。

福井委員

- ・こういった構想は HP で公開されることが多いが、一般の人が見ることは少ない。ポスター等にして園内に貼ることで来園者に発信してみてもどうか。また、そのポスターに QR コードを付け、HP に誘導する等も考えられる。

湯本座長

- ・それらの発信を通して、動物園から遠ざかっている人にもアピール出来ると良い。

今村委員

- ・委員に就任したことを自分の周りの人に SNS で発信したが、本会議が行われたことがどこにも公開されていないので、シェアしにくい。
- ・私の周りの人は、動物園について来園者目線の意見（例えば動物舎の網目が細かく動物が見えづらいなど）を言う人が多いので、そういった意見もどこかのタイミングで聴取していただけたらと思う。市民を巻き込んで、発展しようとする姿勢を示していければ良いと思う。

湯本座長

- ・フェイスブック等の SNS で、会議の様子などを発信して行けると良いように思う。姿勢を示す意味でもオープンにすることは重要である。
- ・1年間進めてきたことを、市民へ報告することが大切ではないか。

片山園長

- ・A3 のものが概要版であるが、施策の概要版であり、幅広い全体像の概要版になっていないと感じている。
- ・新年度に、今の京都市動物園の魅力を発信して行きたいと思う。本庁とも、そういったことを進められないかと協議しているところである。

湯本座長

- ・座談会は良いアイデアだと思うので、是非検討してもらいたい。

藤井委員

- ・飼育員ブログが内容も多く、いろいろなことが書いてあり、とても良い。しかし、フェイスブックにおける口調があたかも子供向けのものであり、それが本会議のような内容を載せにくくしているのではないかと思う。しかし、本会議の内容を子供に話せるようになることが大切であり、そこをつなぐ取り組みが必要である。真面目な話と楽しい話をつなぐことが出来ると良い。それが参画へとつながる。
- ・市民が自分たちで作っている意識ができれば良いと思う。

森村委員

- ・前回、マーケティングが欠けているということを指摘したが、情報発信についても、誰に向けて発信するのか、いかに巻き込むのかを明確にして、費用対効果を考えて取り組まないといけない。
- ・動物園の評価項目として来園者が指標になっているが、それを最大化していくことを戦略的に考えて進めていかないといけない。

湯本座長

- ・こういう会議で会うのは動物園の管理職の方だが、こういった話を管理職ではない職員と議論できると良いと思っていた。市民と議論を交わすのも大切であるが、その前に日々動物の飼育に携わっている現場の職員と議論を交わすことも必要であるかと思う。

坂本副園長

- ・今後具体的にどのような場を設けて構想をブラッシュアップして行くか、内部で検討して行きたい。

福井委員

- ・以前、市民の方と図書館のイベントで鳥の話をしたが、とても楽しかった。それは大人向けであったが、そういった場を段階的に設けられると良い。

- ・構想については、内容が多いので小分けにして進めれば市民も参加し易いと思う。

湯本座長

- ・一回やって終わりというアリの的なものではなく、色々な参加者、角度、方法で開催して行けると良い。

北村局長

- ・この会議は公開をしているが、会議を行っていること自体が市民にあまり知られていないと思われるため今後座談会などで公開していく方向で考えたい。
- ・来年度は双方向の意見交換を行っていきたい。
- ・どういうことを目指して行くのかを記載できると市民にも分り易いように思う。

**- 休憩 -**

資料（コレクションプラン、教育プログラム）説明

湯本座長

- ・コレクションプランは、新しい動物園像を考えていく上で大切である。
- ・飼育する動物種の数誇る考え方ではなく、種数を絞る理由、近畿圏の動物園における位置付け、繁殖での他園との連携等を伝えていくことが重要である。

中道委員

- ・例えば、ペンギンは京都水族館とは種が違うということだが、種が違うということを理由に飼育するのか、それとも京都水族館の展示と連携させて展示するために飼育するのか。私は後者のような他園との連携はあり得ると思う。4園間連携で各園をつなげるのは動物や植物だと思う。
- ・京都水族館ではペンギンたちの生体や家系やゴシップ情報の記載があり、とても分り易い。
- ・

福井委員

- ・京都府立植物園では植物を植える場所が足りなくて困っているということを聞いたが、その担保を京都市動物園が担えると良いように思う。

池田委員

- ・中期目標は市民に分り易い目標であり、守るべき5種類が書いてある。
- ・特に力を入れている動物や逆に飼育していない動物について、ビジュアルで理由と共に説明できると良いと思う。

湯本座長

- ・未だに古い動物園像を期待して来園する人もいると思うので、そういった人たちに丁寧に説明して行くべきかと思う。



#### 今村委員

- ・大牟田市動物園に行ってきたが、入り口にゾウはいません、と記載されている。理由も明記されている。ホワイトタイガーについては、今の個体がいなくなったら飼いませんと明確に意思表示している。そういった理由や意味とともに、動物の知識を得られるということは良いと思う。観客も興味を示していたし、知りたい情報だと感じた。

#### 湯本座長

- ・現在のライオン（ナイル君）がいなくなった後も飼育施設を残し、説明書きを付け、メッセージとするというのもあるかと思う。

#### 澤邊委員

- ・ライオンがいないということは我々一般市民からすると、残念で価値が無いように思ってしまう。一般市民はライオンの習性(社会性)や必要面積から、現在の飼育環境が不適切であることは知らない。しかし、そういった事情を丁寧に説明していると関心度が高まるかと思う。

#### 池田委員

- ・職員の手書きによる説明など、多く設けすぎると見にくくただ汚いことになってしまうので気をつけた方が良いでしょう。現状、成功しているところと失敗しているところがある。だらだらと並べると、どれが重要なのか分りにくい。個人的な話なのか、園全体の思いなのか等も整理が必要。

#### 中道委員

- ・ゾウについて準間接飼育施設にするということだが、現在のゾウはラオスから来たとのことだが、ラオスでは野生動物と使役動物としての利用の両面とがある。そういった歴史も含めて発信していくことは考えているのか。

#### 坂本副園長

- ・今のゾウは農家で使役利用されていたゾウであり、直接飼育を受けてきたゾウである。
- ・ラオス現地における直接飼育と本園での間接飼育で決定的に違うのは、寝食を共にするかどうかである。現地と同じ状況を動物園において実現することは難しいと考えている。そのため、間接飼育へと切り替えを目指すこととなった。

#### 森村委員

- ・コレクションプランには、種名(ラテン名)と亜種を載せるべきではないか
- ・コレクションプランは動物園の通信簿となるので、内容を厳しく精査できる状況を作った方が良いと思う。

#### 湯本座長

- ・最後に一人ずつ感想をお願いいたします。

#### 池田委員

- ・コレクションプランに関心を持った。リーダーシップを取って牽引している動物園として、何を守っているのかということをも市民に発信して行くといいように思った。京都市民の誰もが知っている状況になれば良い。

#### 今村委員

- ・直接飼育や間接飼育については私も知らなかったもので、そういった内部の人しか知らない動物の知識も一般の人に伝えていったほうが良いと思う。

#### 澤邊委員

- ・一般の人に、この場の話をも積極的に伝えることが必要かと思う。。

#### 中道委員

- ・海外で、人との関わりでアジアゾウの行動が変わるのを見てきた。アジアゾウを複数飼育していく中で、どのように飼育していくのかは難しい課題である。

#### 福井委員

- ・コレクションプランは各園での連携が重要である。
- ・教育プログラムにキャンパスメンバーズを入れるときっかけが出来て良いと思う。

#### 藤井委員

- ・これだけのものを限られた資金、人的資源で全てのことができるのかとやはり疑問に思った。教育プログラム等にも職員の時間を割かれる。

#### 本多委員

- ・子供たちが、身近にいる生物に対して周りの人と話すことができる要素が各所にあると良い。

#### 森村委員

- ・入園者に対する環境教育に参加した割合を大きくしていくことが大切であり、課題かと思う。

#### 湯本座長

- ・皆さま本年度はありがとうございました。

#### 片山園長

- ・本日指摘いただいたところは修正していきたいと思う。
- ・新年度は、市民の方々にシンプルに伝える概要版を委員の方々の意見もいただきながら作成していきたい。
- ・秋にはパブコメを実施していければと思う。
- ・構想にコレクションプランのリストを載せるかどうかは悩んでいるところである。

湯本座長

- ・コレクションプランについては、リストも重要だが考え方を記載することが大切かと思う。

北村局長

- ・来年度も皆様に引き続きお世話になるかと思う。

山本課長

- ・委員のみなさまありがとうございました。
- ・次回の委員会の日程については後日ご連絡させていただきたいと思う。

- 閉会 -